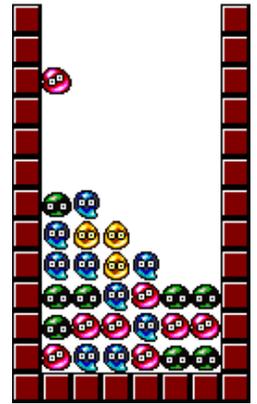


☆講座プリント No.12 初中級者向け中盤の用語解説 1/2 作成: drapom

★キーぷよ

→図のように連鎖が発動するために必要なキーとなるぷよを指す。

数手に対応や本線に応用することができ、中盤戦を深く楽しむためには必須の技術。



★合体

中盤における雛形とも言える、基本の重要戦術。

かつての伝説的プレイヤーミスケン氏が考案し実現させたもの。

ミスケンさん制作の [web ページ「ぷよステーション」](#) に元となる解説があるため是非とも読みましょう。IE じゃないと閲覧不可。(たぶん)

合体を目的にし作成した副砲は本線に繋げることできる。

中盤力だけでなく最終的に大連鎖も戦術の視野に入れることができる。

右下図のように連鎖尾部分を横の段差を揃えた後、GTR や新 GTR などを用い繋げにいくのが安定した基本の流れの合体戦術。この後どのように繋げていくかはツモに左右される。



★副砲・潰し・催促・牽制の違い

・副砲は、本線とは別に作成した連鎖のタネ。

中盤用途だけでなく本線にも繋げる余地を残した、中盤において目的は非限定的である連鎖。

・潰しとは、相手のフィールドを埋めることを目的とした連鎖の構築を指す。

連鎖数の末がダブルやトリプルなどのマルチであることが多い、または多連結になる少連鎖。

・催促とは、相手の動きを促すことを目的としたおじゃま 1 段以上 3 段未満付近の小連鎖。

相手の本線や副砲など発火させ、こちらのフィールドで用意しておいた連鎖でシンクロ被せ！などは結構強い。

・牽制とは、主に相手のフィールドの状況を狭めることを目的とした、単発や 2 連鎖。

牽制が結果として催促となる場面は多い。単発を上手に使えるプレイヤーは中盤の駆け引きがうまい。と思う

★隙について

連鎖を構築するにあたり、その本線や副砲を発火するまでに手数が長くなってしまう場合、隙となる。

どんな上位プレイヤーでも僅かながら隙は発生します。どんな場面で隙が発生するか、どんな状況が隙になるか考えてみると中盤において相当役に立ちますので考えておきましょう。

凝視力があればあるほど隙を見逃しにくくなる。

どういった場面や積みに対し好きがある状況か読んで勝てるようになるとカッコイイ！

★受け

相手から送られてきたおじゃまぷよを相殺せずあえて受けること。

おじゃまを受け、一般的にはそこからカウンターによって起死回生を目指す戦法を指す場合が多い。

受けることにより、ぷよの消費を最低限に抑えることが出来るが、相手の行動の詳細での予測は難しく、突然の相手の手の変化に対応しづらい。

てな感じでハイリスクではあるがリターンも大きい。相手に手を読まれにくい所もポイント。